



113,552円ものご寄付をいただきました



携帯電話でアクセス

見守りとうど衆研修会 開催

2月20日(日)午後1時30分より、飯山市福祉センターを会場に、『見守りとうど衆研修会』が行われました。

前半は、長野県社会福祉協議会総務企画部企画調整推進員の美谷島越子氏による基調講演が行われました。最近の福祉課題は、『地域の人々のつながりの欠如による事件や犯罪の増加』また日常生活で手助けが必要な方、地域の安心・安全の確保など様々あります。制度サービスマスではカバーしきれないこのような問題に対して、住民の誰かが気づき、誰かが何かをしなければならぬ。これからの地域づくりは、制度対応型サービス(行政が支える部分)とニーズ対応型サービス(住民が支える部分)の



講演される美谷島氏

両方が組み合わされて動く仕組みが大切であります』とお話いただきました。後半は、シンポジウムがおこなわれ、木島平村社会福祉協議会長 眞篠淳子氏、飯山市社会福祉協議会長 岸田勉氏よりお話がありました。岸田会長からは、『見守りとうど衆』の活動は20

年目を迎えるが、隣近所の助け合い、支え合いの大切さを感じている。これから、地区内での助け合いの仕組みづくりを力を入れていきたい』とお話がありました。また、眞篠会長からは、木島平村社協での取り組みについて、ボランティアの方のいろいろ限られた予算・食材の中でアイデアを出し合いながら配食サービス(ふれあいランチ)を実施している様子や『男俱樂部』では、男性が集まり、料理等自分で作り、一人でも生活に困らないための懇親の場などの紹介があり、月1回のボランティアセンター運営委員会を通じて活動を支援しているとお話いただきました。最後に、美谷島氏が



会場には大勢の方が来場されました

ら、『地域で暮らすことは、ちよつとした困りごとがあちこちで発生します。行政まかせだけでは解決できない問題も多くあり、住民の力は不可欠です。ぜひ社会福祉協議会を活用しながらつながりを作ってください』とお話いただきました。

歳末激励事業 愛のしるしクーポン券事業 実績報告

年度末に実施しました歳末激励事業「愛のしるしクーポン券贈呈事業」ですが、市民の皆様からいただきました赤い羽根共同募金を財源に実施されました。

対象者は、重度要介護高齢者及び重度心身障害者介護者(介護度3・4・5)の方、母子・父子世帯になった世帯(平成21年11月1日～平成22年10月31日)等の世帯に、市内の商店で利用できる5千円分のクーポン券をお配りしました。

あらためて、市民の皆様のおたのしみな善意に心より御礼申し上げます。

【対象者】269名
【使用者】165名

(2月28日現在)

とうど衆交流調理研修会 ～配食とうど衆『とうど寄り』

見守りほのぼの弁当は平成6年2月よりスタートし、月に1回、独り暮らし高齢者及び高齢者二人暮らし世帯等を対象に、調理とうど衆、配食とうど衆のボランティアの皆様によって行われています。

2月22日(火)に飯山市公民館で、両とうど衆の皆さんが集まり研修会が行われました。

はじめに、毎月とうど衆として活動する中での思いや課題が出されました。「退職してからの日々を何か役に立つことに使いたいと思いい、とうどに参加しました」「お弁当を届けに行くとき外で待っていてくれる人がいる。なるべく早くお届けするように頑張りたい。」「冬場は配達ついでに除雪をしてくれる方もいる。」「いろいろな世代の人達と一緒に調理することは楽しい。張り合いが出ます。」「料理の勉強にもなります。」「配達したがお留守でお渡しできない時もある。所在の心配も



懇談しながらこれからについて話し合いました

ありどうしたらよいか。』など多くの意見が出されました。その後、普段作っているお弁当を参加者全員で調理し、試食を行いました。お弁当メニューについての理解や、どのように作られているのか、普段の活動では知ることのできない面を研修することができました。顔を合わせることが少ない両とうど衆の相互の理解や結束が図られた有意義な研修会となりました。

雪掘りとうど塾 開催

外様地区を会場に県内外から大勢の方にご参加いただきました

2月5日・6日(土・日)に外様地区活性化センターをメイン会場に『平成22年度雪掘りとうど塾』を開催しました。

当日は、東京・埼玉・山梨・長野市などから23名と指南役の地元関係者21名が集まり行われました。

5日の午後より、オリエンテーションを行い、雪に慣れていただく目的で3つの班に分かれ、「かまくら作り」を行いました。その後、



除雪活動中の参加者



最後は全員で記念撮影

「かんじきリレー」を行い、見事優勝した班には賞品として「かんじき」、最下位の班は罰ゲームとして「新雪への放り投げ」が授与され、楽しく行いました。

夕食交流会では、参加者から「相撲甚句」の披露や、地元の方より猪の焼肉の振舞いなどがあり、楽しく交流できました。

翌6日には、外様地区内3世帯の除雪活動を行い、

雪の多さ、大変さを感じながら活動しました。

除雪先の世帯の方が「若い人達が来てくれてありがたい」と涙する場面もありました。

参加者からは、「雪国の生活を知らない私達がボランティアとして行き、実際に体験することでしか分からないことがありました。地元の方との交流も含め、とても良い経験になりました。」(文教大学3年 長谷川美帆)や「今回の雪掘りボランティアの経験を「楽しかった」だけで終わらせるのではなく、実際に災害が起きた時に自分がどう動くかが大切だと思いました。」(浦和大学4年 本澤新人)など感想が寄せられました。

この事業を通じ、雪害時の除雪活動の必要性や飯山を知っていただく機会になればと思っております。今回、当事業に関わっていただきました大勢の関係者の皆様に御礼申し上げます。